

「社会に生きる学力」の獲得を目指して



- ・東大附属の教育目標とカリキュラム
- ・教育学部との連携と知の財産
- ・教育研究(協働学習)の取組
- ・研究体制、組織づくり
- ・イノベーション科研との関り
- ・今後の方向性とあり方

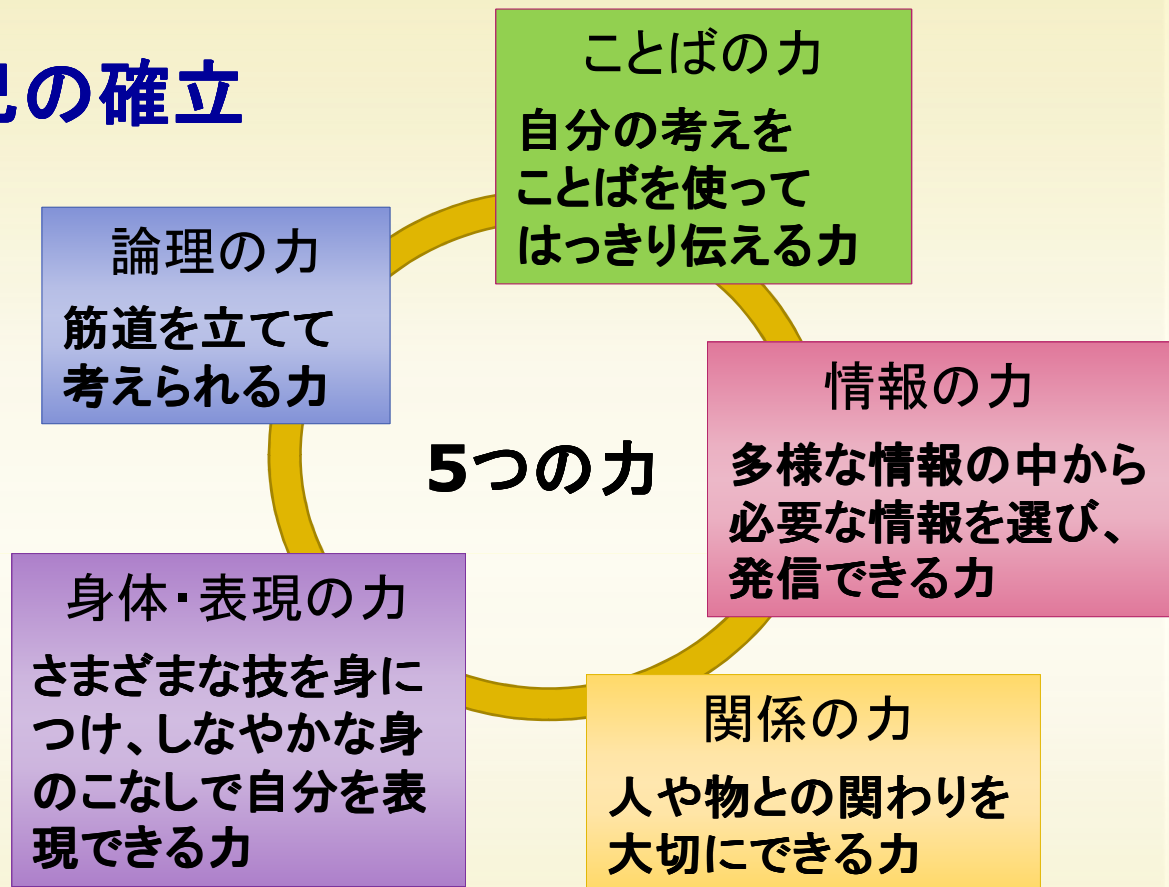


東京大学教育学部
附属中等教育学校
村石幸正・福島昌子

<教育目標> 未来にひらく自己の確立

- ・豊かな人間
- ・自主的な思考と判断力
- ・のびやかな表現力

連動した教科の学習と多様で系統的な総合学習によって『5つの力』を育成し、その『5つの力』をそれぞれの子どもたちの未来を切り拓いていく力、すなわち「生きる力」にまとめ上げる



カリキュラム計画

6年生

発展期

5年生

4年生

充実期

3年生

2年生

基礎期

1年生

教
科
学
習

教科学習だけでは得られない幅広い体験をさせ、「大学・社会での学びにつながる人間の育成」を行っている

⇔ 卒業研究

⇔ 課題別学習

⇔ 総合学習入門

5・6年生 卒業研究

自分で決めたテーマを、2年間通して追及し、論文にまとめる。
4年間の総合学習の経験をもとに、個性や特性を生かしながら、
指導教員の下、自分の力で論文や作品を作り上げる

全国学芸科学コンクール

<内閣総理大臣賞>

渡辺あやか 「野川 ～より良い川を目指して～」

<銀賞>

杉田晋一郎 「夏目漱石の小説に見る空の描写表現」

<銀賞>

名富桜子 「『名富』という姓の男」

<銅賞>

根岸千悠 「日本の子どもの『算数力』を考える」

<入選>

他20名



教育学部との連携(1)

＜東大附属をフィールドとした研究＞

○東京大学双生児科学推進事業

○学校教育高度化専攻との連携
(平成23年度:21名の実地研究を受け入れ)



基盤(A)科研費(平成23年度から)

*「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」

*図書館を学習過程の中心に置く

「探求型学習の方法に関する教育実践と評価」

教育学部との連携(2)

<教育学研究科と附属学校の連携研究>

○授業研究

「学びの共同体」2005年～

「教えて考えさせる授業」2009年～

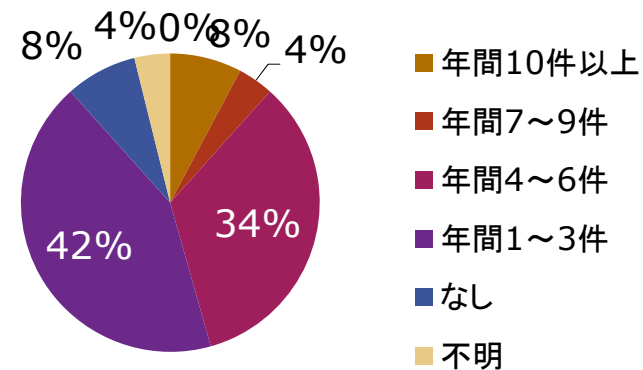
○健康教育研究

「発育・発達」身体教育学コースとの連携

「心理教育」

※種々の研究依頼に
対する協力

大学教員の研究に対する附属学校の
協力状況(H21年度全附属調査結果)



○授業方法論研究

協働学習での学校づくり、授業づくり



【授業改革が目指す方向性】

- ・一方的に効率よく知識を伝達し、暗記させる教え込み授業を変える
- ・教科書、ノート of 学びから、仲間と共に探求し合う問題解決的な学びに転換する

「協働学習」「学びの共同体」 「教えて考えさせる」



互いに学び合う

目標に至る過程を共有し、交流・探求することによって互恵的に学び合う

＜協働学習の機能＞

- 説明や質問を言語化することで不明瞭な点が明らかになり、より理解が深まる（理解深化）
- 集団全体としてより豊かな知識ベースをもつことができるため、限られた時間内に思考が節約でき、アクセス可能、利用可能な地域が増える
- 相手の反応等によって、自己の認知過程や思考のモニタリング（評価調整）ができる
- 相互にやり取りをし、同じ意見や活動を共有することで、参加への動機やグループ意識が高まる

＜教員アンケートによる振り返り＞

(改善された点)

生徒について

- ・主体的に学ぶ姿勢が身についた
- ・考えることや解決の過程を楽しむようになった
- ・協力して課題に取り組み、学習に集中するようになった
- ・班活動がスムーズになった
- ・学校が落ち着き、生徒が穏やかになった
- ・「わかる」「わからない」が差別化されず、コミュニケーションのきっかけとして作動している
- ・多様な考え方を受け入れられるようになった

＜教員アンケートによる振り返り＞

（改善された点）

教師・授業について

- ・授業中に生徒をケアする姿勢が身につき、学習の遅れが生じる生徒が減った
- ・他の授業への参加が抵抗なくなった
- ・お互いの授業が見やすくなった
- ・生徒の様々な面が見られるようになった
- ・教員同士、お互いを理解し尊重するようになった
（同僚性）

研究部による研究体制・組織づくり(1)

年間を通した研究主題と基本方針の決定まで

何を共有するのか？(具体化)

目的

1. 国立附属学校における「**国の拠点校**」としての機能
2. 公立学校、中等教育学校の**開発学校の「モデル」**であること
3. **ビジョンへのアプローチ**(短期的→長期的)

年間計画

- ・一年ごとの明確な振り返りが可視化
 - ・持続可能で長期的な変容
4. **年間計画の中での位置づけ**
 - ・研究主題
 - ・通年の授業
 - ・研究会(授業検討会)(校内研究会)
 - ・公開研究会

※つながりの可視化

方法

5. 教科・個人研究との兼ね合い
6. 教科の枠を超えた「**学びの質**」と、教科の「**学びの質**」の関連性

研究部による研究体制・組織づくり(2)

23年度 年間を通した研究主題と基本方針

研究主題コンセプト

公開研究会の研究主題

平成21～22年度(第11, 12回)

学びの質を高める協働学習

(授業者が考える協働学習)



平成23年度(第13回)

学びの質を高める協働学習

—教科の特性に基づく学びとは—

1. 「国の拠点校」「モデル校」としての役割を考慮する
2. 長期的な見通しをもって研究課題を設定する
3. 学校全体に対する統一性の可視化
4. 個々の教員の研究・実践を活かす

教科の枠を超えた学びの質とは
各教科に共通する学びの質とは



教科にとっての学びとは？
教科に必要な学びとは？

- ・教科の本質に沿った協働学習
- ・教科における協働学習
- ・教科の協働学習における学びのスタイル
- ・教科で高めあう学びの質

協働学習 研究主題を意識した授業検討会

(1) 基本的な考え方

- ・原則として、教員全員が公開研究会も含め年間で1回は授業を公開するようにする
- ・授業と授業検討は、①公開授業、②教育学部の先生、③学年別、④教科別の 4種類で行う
- ・授業研究会は原則として以下(2)のような時程と分類で行う
- ・教科別：国語科、社会科、数学科、理科、芸術科/情報・技術科、体育科/家庭科/養護、英語科

(2) 日 程

- 第1回 4月27日(水) 学部『授業研究会のあり方』(秋田先生)(植坂先生)
- 第2回 5月23日(月) 学部『教えて考えさせる授業』(市川先生)(植坂先生)
- 第3回 6月30日(木) 学部『学びの共同体』(佐藤先生)(田中先生)(秋田先生)
- 第4階 7月14日(木) 教科別
- 第5回 9月 8日(木) 学部『学びの共同体』(佐藤先生)(小玉先生)(田中先生)
- 第6回 10月26日(水) 学年別(佐藤先生)
- 第7回 11月16日(水) 学部『協働学習』(秋田先生)(藤江先生)
- 第8回 12月16日(金) 教科別
- 第9回 1月30日(月) 学部『教えて考えさせる授業』(市川先生)
- 2月18日(土) 公開研究会(研究科の先生方)
- 第10回 3月(未定) まとめ

*この他にもできるだけ学年別の授業研究会を予定し実施する

公開研究会の開催

教育実践研究

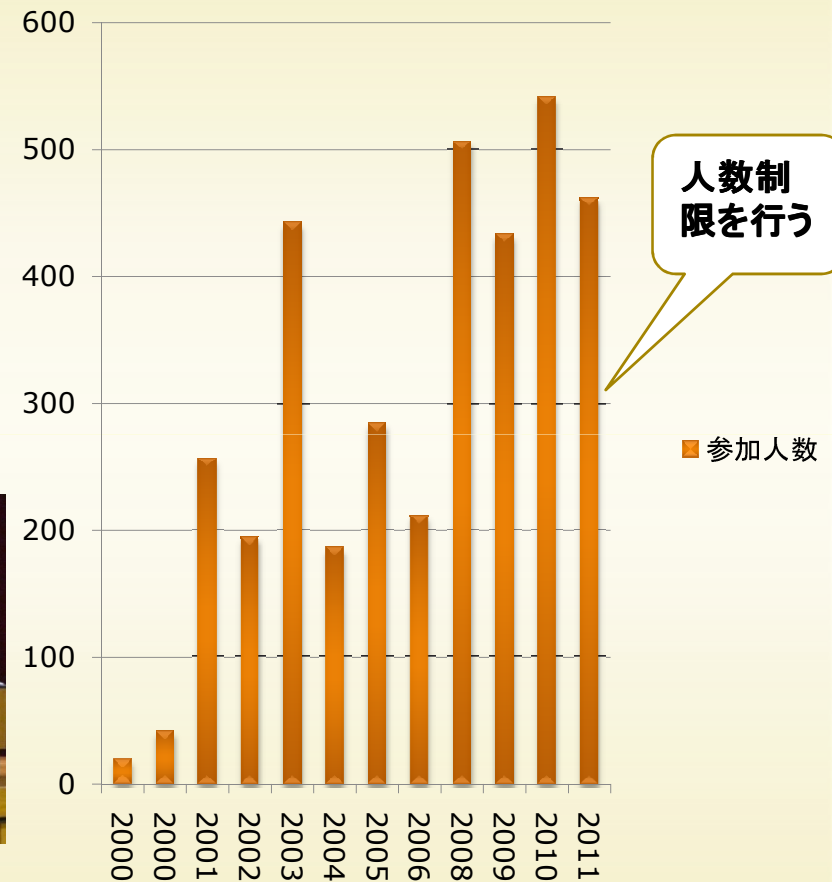
研究会	回	年度	研 究 主 題	きょうどう学習の導入			
研究開発 1年次	第1.2回	2000	中等教育学校に期待するもの ーカリキュラムを作るということはー	学 び の 共 同 体	教 え て 考 え さ せ る 授 業	協 働 学 習 (1)	協 働 学 習 (2)
研究開発 2.3.4年次	第3.4.5 回	2001 02 03	中等教育学校における前期課程と後期 課程との連携を図る教育課程の研究開発				
研究開発 5年次	第6回	2004	6カ年一貫教育の新たな課題 ー中等教育学校のメリットをどう活かすかー				
研究開発 6年次	第7回	2005	「5つの力」の育成をめざして ー「言葉の力」「論理の力」「身体・表現の力」 「情報の力」「関係の力」ー				
公開研究会	第8回	2006	6年制中等教育学校で身につけさせたい力				
	第9回	2008	中高一貫教育で変わる生徒の学びの様相 ー学びの共同体づくりを背景にした授業実践ー				
	第10回	2009	6年一貫の学びを支える教材・カリキュラム				
	第11回	2010	学びの質を高める協働学習				
	第12回	2011	学びの質を高める協働学習				
	第13回	2012	学びの質を高める協働学習 ー教科の特性に基づく学びとはー				

公開研究会での 学部との関わり

- ・全教科において、コメンテーターを学部の先生方に依頼(2010)
- ・全体会形式をシンポジウムとし、複数名の学部の先生方に講師を依頼(2009～)



公開研究会参加者数の推移



イノベーション科研費との関わりの中で

総括ユニット

- ・カリキュラムの基礎概念の検討
- ・高等教育の接続の観点からの初等中等教育カリキュラムの検討
- ・カリキュラム・イノベーションに向けた行政の役割の分析
- ・理論・思想と実践・授業分析をつなぐ全体の調整とプラットフォーム作り

基幹学習 ユニット

- ・言語力育成, 数理能力の育成
- ・学びの学習, 探求学習

生き方の学習 ユニット

- ・哲学教育, 心理教育
- ・キャリア教育, 職業教育

社会参加の 学習ユニット

- ・市民性教育A, 市民性教育B
- ・バリアフリー教育

イノベーション科研費との関わりの中で

番号	ユニット	タイトル	タイプ		
			授業時間 を利用	調査・観察が主のもの 研究の蓄積があり 開発が進んでいる プログラムの実施	新しい授業を附属 と一から開発する
1	基幹学習	中等教育段階における文法指導に関するカリキュラムと指導法に関する調査研究	○	○	
2	基幹学習	メタ学習プロジェクト①: 総合的な学習の時間を活用した学び方の学習と支援	○		○
3	基幹学習	メタ学習プロジェクト②: 教科教育における協同を活用した学び方の学習と支援	○		○
4	社会参加の学習	シティズンシップ教育のカリキュラム開発	○		○
5	生き方の学習	学校現場における予防的心理教育授業に関する研究	○	○	
6	生き方の学習	ライフキャリア教育の可能性の検討 ー 社会的レジリエンスを高めるために	○	○	
7	生き方の学習	関係づくり能力アップのための心理教育プログラム	○	○	
8	基幹学習	効果的な探究型学習の進め方と学校図書館の関係 についての研究	○		○
9	基幹学習	数理能力の育成プロジェクト	○		○
10	社会参加の学習	共生の作法と技法を育てる学習プログラムの開発(仮)	○	○	
11	社会参加の学習	教育の職業的意義	○	○	
12	総括	中等教育と高等教育の接続		○	
13	総括	中等教育学校における総合的な学習のあり方			

附属学校の今後

国立大学附属学校のあり方と方向性

- 教育学部との連携による先導的・実証的な研究
- 教育学部等の研究フィールドとしての役割



「モデル校」「国の拠点校」であること

イノベーション科研費プロジェクトとの関わりの中で

- ・『**大学・社会での学び**』につながる**中等教育のモデルの提示**
- ・国立大学附属学校だからこそできる、公立学校ではできない**先駆的な教育研究とその実証**
- ・**学部と連携した「教育研究の場」**としての機能
- ・「日本の教育のあり方」を意識し、附属学校としての「教育実践研究」を「これからの学びのスタイル」「授業のスタイル」等の**授業改革を推し進める**

「社会に生きる学力」の獲得を目指した教育

最先端の教育学研究を行う学部

共同・連携研究

教育研究の場としての附属学校

